

地域防犯の強化に資する課題発見、解決 (地域防犯の持続可能性を高めるために)

指導教員 北陸大学 経済経営学部 教授 山本啓一

参加学生 荒濱めぐみ・石浦瑠七・石腰昇平・猪村隆斗・岡本恭兵・金田理玖・木村花珠
熊手友哉・斉川昌志・斉木良介・清水悠貴・新谷悠真・田代凜太郎・田畑佑哉
徳本凌太・バログン ラティフ アビドゥン・梶田奈々・溝口歩夢・宮田結利加・山口恭平

1. 活動の成果要約

今年度は、菊川町・新堅町エリアにおいて、地域防犯活動として地域安全マップ作りを実施するとともに、4つのグループによる地域防犯に関する研究活動を行った。高齢化が進み従来型の防犯ボランティア主体による見守り活動が持続困難になってくる中、4グループは、①公民館を含めより広範囲な組織間・団体間の連携を推進する、②スマート防犯カメラや歩行者用ドライブレコーダー等のデジタルツールを活用する、③Youtube 等の動画による啓発活動を推進する、④交通事故と防犯の共通部分に焦点を当て地域全体で事故防止と防犯を推進する、という提言を行った。コロナ禍の最中であり、地域住民との対面での協働は困難であったが、反面、DX化を取り入れた取り組みが大きく進展した。その結果、オンラインでの地域安全マップ作成を実施できただけでなく、取り組みが中学校にも波及し、今後の地域防犯活動の広がりが期待できるという成果も得られた。

2. 活動の目的

菊川町・新堅町エリアは、小学校の統合により子どもたちの通学路の変化及び広域化が起きており、保護者に安全に関する不安が生じている。また、地域防犯活動に関わる担い手の高齢化や後継者不足、同地域の高い空き家率などが要因となり、住民の体感治安の低下も懸念されている。さらには、従来型の見守りボランティアや住民パトロールといった従来の手法には限界が見えてきていることも指摘されている。そこで、防犯環境設計（CPTED）や犯罪機会論の知見をもとに、ハード面からみた改善といったアプローチに加えて、地域コミュニティの活性化といったソフト面からのアプローチを組み合わせ、地域防犯とまちづくりの分野を組み合わせた視点からの解決策を構想し、提言する。

3. 活動の内容

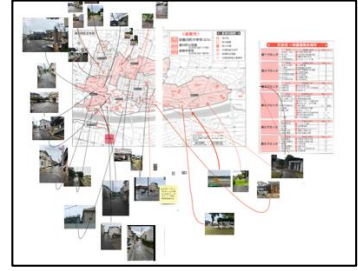
ゼミ全体では、犯罪機会論の視点をもとに地域のフィールドワークを行い、防犯面で注意すべき場所（危険な場所）、防犯面で配慮されているか問題のない場所（安全な場所）の発見を行うとともに、2つの地域において2種類の（オンライン版、対面版）の地域安全マップづくりを実施した。

また、ゼミ内でグループごとの研究プロジェクトを立ち上げ、調査研究を行うとともに、地域に対して今後の地域防犯のあり方等に関する提言を行った。

ゼミ全体で実施したフィールドワークや地域活動は下記の通りである。その他、グループごとに独自に地域や行政機関に対する聞き取り調査等を行っている。

・6月～7月 地域でのフィールドワーク実施

対象地域である菊川町の全体像を把握するために、地域を歩き、防災拠点や過去に作成した地域安全マップで明らかになった危険箇所などをチェックし、オンラインツールである miro で集約した。ただし、緊急事態宣言期間中において公民館の立ち入りが制限される等、当初想定していたような地域住民との交流といった取り組みは実施できなかった。



・10月～ 地域でのフィールドワーク実施、事前学習用動画撮影

グループごとの自主プロジェクトをすすめる一方で、菊川町・新堅町エリアにおける危険箇所を収集するとともに、地域安全マップづくりの学習効果を高めるための動画撮影を行った。



・11/7 菊川町・新堅町エリア地域安全マップづくり

(https://miro.com/app/board/o9J_lm3TIh8=?invite_link_id=303873369923)

事前に地域の小学生等呼びかけて地域の危険・安全情報を収集し、miro上に地域安全マップオンライン版を作成した。当日は、情報提供者の発表や学生からのフィードバックを中心に実施した。



・11/8 富樫小学校エリア地域安全マップづくり

富樫公民館からの依頼により、富樫小学校4年生全員を対象とした地域安全マップづくりのうち、事前学習とフィールドワークを、公民館の協力も得て、午前中に実施した。



- ・12/4 菊川町公民館土曜講座研究発表会(公民館 HP で動画公開 <https://youtu.be/7arzTYEq0lo>)
- グループごとの研究成果に関する発表会を実施した。プロジェクトのテーマは、①地域連携の強化と防犯カメラの活用、②啓発動画を Youtube で作成する、③歩行者用ドライブレコーダーの可能性を検討する、④交通事故と防犯の共通部分を探る、という4つであった。



4. 活動の成果

＜活動成果について＞

地域防犯の一つの手法である「地域安全マップ」作りに関しては、北陸中日新聞において取材を受け、3回にわたり掲載された。その内容は、①オンラインツールを活用し、様々な点で地域防犯のDX化を試みているという点、②学生自身が地域をフィールドワークを行った上で動画作成につなげているという点、③公民館が中心になることで地域防犯活動がまちづくりに発展している、という取り組みの特徴である3点が取り上げられた。



『北陸中日新聞』10月1日朝刊



同10月12日朝刊



同11月9日朝刊

＜貢献事項＞

上記に関しては、以下のような具体的な成果物を地域に提供できた。

1. youtube 動画による学習教材・啓発教材の提供と活用

地域安全マップ作りは、従来は大学生が小学生につきっきりで指導を行う対面型スタイルであったが、今年度、オンデマンド型教材を学生たちが開発することで、より多くの小学生に対して地域安全マップ作りの基礎となる犯罪機会論について学習する機会を提供できた。また、学生たちが独自に作成した動画コンテンツには、留学生が作成した英語版もあり、在留外国人小学生に対しても犯罪機会論に関する知識を提供できるようになった。



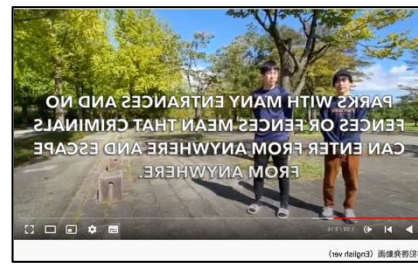
地域安全マップ事前学習動画

<https://youtu.be/nK6ITv5dfwo>



犯罪機会論啓発動画

<https://youtu.be/oyuJRX9YqS8>



犯罪機会論啓発動画（英語版）

<https://youtu.be/0yyOUTuSerU>

2. 波及効果

以上のように地域安全マップ作りのコンテンツの一部をオンデマンド化したことにより、同地域の城南中学校の依頼により、上記の動画のほとんどを流用した啓発動画を作成し、同中学校の朝礼で紹介してもらうことができた。これにより、次年度以降、より広範囲な協力関係をもとにした活動が可能となることが期待される。

5. 次年度以降の計画

防犯環境設計（CPTED）の現在の考え方（第2世代CPTED～）としては、防犯分野は独立したものではなく、環境美化やまちづくり、地域コミュニティ等と密接に関連すると捉えている。さらに、最近になって登場した第3世代CPTEDにおいては、地域の持続的発展やDXと地域防犯が密接に結びついていると捉えられるようになった。

そこで本事業においては、子どもの防犯を目的とした地域安全マップづくりにとどまらず、空き家問題、環境問題、DX推進等、地域コミュニティの持続的発展との関連性を意識しながらフィールドワークを実施し、課題発見・課題解のプロセスにつなげる取組みとしたい。このように地域防犯の視点を拡張することで、地域防犯とSDGsを関連させることも可能となる。次年度においては、地域防犯の領域を広げ、新たなテーマの開拓へとつなげることにしたい。

その際に、今年度コロナ禍のために実施が難しかった学生と地域住民との交流を中心に据え、地域住民との協働を重視することとしたい。

6. 活動に対する地域からの評価

今年度の地域安全マップづくりに関しては、事前打ち合わせから当日に至るまで地域側からは公民館をはじめとして、多くの地域住民の協力を得ることができた。土曜講座発表会等においても地域関係者の方々に熱心に聞いていただいた。菊川町公民館の卓越したリーダーシップにより、「犯罪機会論」に基づいた地域防犯のあり方については、同地域に広く定着したといえる。菊川地区青少年育成協議会理事（元会長）の山二光三様からは、次のような評価を頂いた。

- ① 参加者(子ども達含む)がフィールドワークに参加でき、現場を確認することができた。これは、「地域安全マップ」作りの最大の成果になった。私自身も自転車で菊川地域を見て回り写真撮影をして、事前勉強ができた。
- ② 北陸大学山本啓一教授と大学生が一貫して「キーワード」を提唱し、miroの活用やYouTubeで視覚に訴えるなどのまとめ方に得難い体験ができた。と共に山本教授や学生たちが現場を見て記録して説明してくれる。自分たち以上に地域を知る活動が出来ていて、地域住民への説得力があり納得できた。
- ③ 今後は、自分たちが、これまで学んだ「地域力」を地域住民に発信して、生活の中に取り入れ、子どもも大人も安心して生活ができる地域とし、防犯と合わせて「交通事故防止」や「防災力」を育む方向に発展させていきたい。